

DIMENSION MK3

f

Wavetable processor



USER MANUAL v4.00 R0

ZIQAL



CONTENTS

CONTENTS	3
INTRODUCTION	5
SPECIFICATIONS	7
INSTALLATION	8
BASIC OPERATIONS	10
MEMORY	13
PATCH EDIT	18
AUX MODES	33
LOAD WAVETABLES	38
MACRO CONTROLS	39
CONFIG MENU	43
FIRMWARE UPDATE	46





INTRODUCTION

ウェーブテーブルシンセシスの歴史は、Wolfgang Palm氏が自身の会社PPGのために初めて開発した1970年代までさかのぼることができます。ウェーブテーブルシンセシスの最初の商業製品の1つが、1981年に発表されたPPG Waveシンセサイザーでした。

それ以来、ウェーブテーブル技術を使用した様々なハードウェアとソフトウェアのシンセサイザーが開発されました。伝説のPPGから Access Virus、Serum MassiveとOmnisphereまで、ウェーブテーブルシンセシスによってシンセサイザーオーディオの世界の幅広い可能性が開かれたのです。

Ziqal Dimensionは、最新の高性能CPUを組み込み、最新のウェーブテーブルシンセシスアルゴリズムを、今までにないコンパクトなフォーマクターでユーロラックのフォーマットに落とし込みました。

最高のウェーブテーブルのレゾリューションを実現し、SerumやVitalなどの一般的なウェーブテーブルフォーマット基準との互換性を提供できるDimensionは、大規模なウェーブテーブルのコレクションを利用できるのです。その高い互換性により、コンピューターソフトウェア環境で作成されたウェーブテーブルを直接ユーロラックのシステムにインポートすることができます。

高性能CPUにより、最大24個同時のウェーブテーブル・オシレーター再生が可能です。これらのオシレーターは、アクティブな構成に応じて、和音、ユニゾン、デュアルオシレーター出力、LFO、あるいはフル4ボイスポリフォニーに設定できます。2次出力は、ステレオオーディオ信号の出力に使用しない場合、LFO出力、2次オシレーター出力、CV、CC、クロックなどを出力するMIDI変換ユーティリティとしても使用することが可能です。

これだけではありません。Dimension MK3は、内部VCA、ADSR、VCF、ウェーブテーブルのリアルタイム・ワーピングと変換、ノー



ト・クォンタイザー、多次元ウェーブテーブル・モーフィング、さらにそれ以外のものも備えています!

このDimensionガイドでは、ファームウェアバージョン4.0に搭載された機能の操作方法について説明します。



SPECIFICATIONS

Electrical

Power supply	+12V ▶	100 mA
	-12V ▶	15 mA

Mechanical

Size	10 HP
Depth	25 mm

Outputs

Sampling rate	44.1 kHz
Bits depth	32-bits

Audio engine

Bit depth	32-bits floating point
Sampling rate	44.1 kHz

Inputs

CV Input range	-3V ▶ 7V
FM Input range	+/- 8 V
A, B & NAV input range	+/- 8 V

MIDI / SYNC
MIDI types

Compatible with A, B & C TRS-

(When MIDI is no activated, MIDI/SYNC input accept GATES/TRIGS)

Memory

Internal	▶ 128 patches
	▶ 25 wavetables
	▶ User preferences

External Micro SD Card



Interface

TFT Display	16bit colours TFT
Rotary encoder	High resolution
Micro SD Card reader compatible	FAT and FAT32 formats
3 Macro controls A, B & NAV each	(1 Knob + 1 Attenuator + 1 CV)

INSTALLATION

安全上の理由から、モジュールを取り付ける前に、電源をオフにするか、またはケースから電源を取り外してください。モジュールを正しく動作させるために、システムの電源がシステム全体をサポートするのに十分な電力を持っていることを確認します。モジュールをケースに接続し、付属の10ピンフラット電源ケーブルを使用して、Dimensionを電源レールに接続します。システムの電源を入れる前に、モジュールが正しく接続されていることを再度確認してください。

システムの電源を入れると、Dimensionモジュールは以下の情報を順次表示します。

- ZIQALロゴ
- ファームウェアのバージョン。FW x.xxx
- ハードウェアのバージョン。HW x.xxx
- キャリブレーションの状態 OK

ファームウェアが最新であることを確認するには、www.ziqal.com/support、表示されたファームウェアのバージョンをウェブサイトで公開されている最新バージョンと比較してください。バグフィックスや新機能を搭載した新しいファームウェアは定期的にリリースされます。問題が発生した場合や、今後リリースされるファームウェアの新機能についてご提案がある場合は、弊社ウェブサイトのお問い合わせフォーム (www.ziqal.com/contact) からメッセージを送信してください。

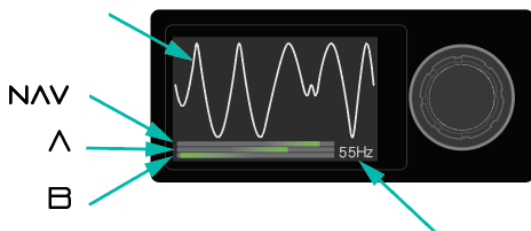




BASIC OPERATIONS

メインディスプレイには、以下の項目が表示されます。:

- アクティブなウェーブテーブル・オシレータの波形
- 3列のメーター表示がA、B、NAVのそれぞれのコントロール値を設定します。
- ルート周波数またはノート



メインディスプレイでは、3つのアクションを行うことができます。:

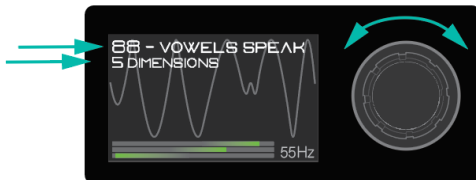
- エディットメニューに入り、現在のパッチを編集したり、DIMENSIONを設定したりできます。
- メモリに保存されたパッチをブラウズする。
- 現在のパッチを保存する。

Browse patches

メイン・ディスプレイからエンコーダーを左右に回すだけで、内蔵メモリー内のパッチのブラウズを開始できます。

再生中の不用意なパッチ変更を避けるため、最初のエンコーダーの動きは無視され、アクティブなパッチ名と情報のみが表示されます。





パッチをブラウズするときに表示される情報テキストは、上から順に

- 1 - パッチ名
- 2 - ウェーブテーブル名

エンコーダをクリックすると、ブラウジングを終了し、表示されているパッチを選択することができます。

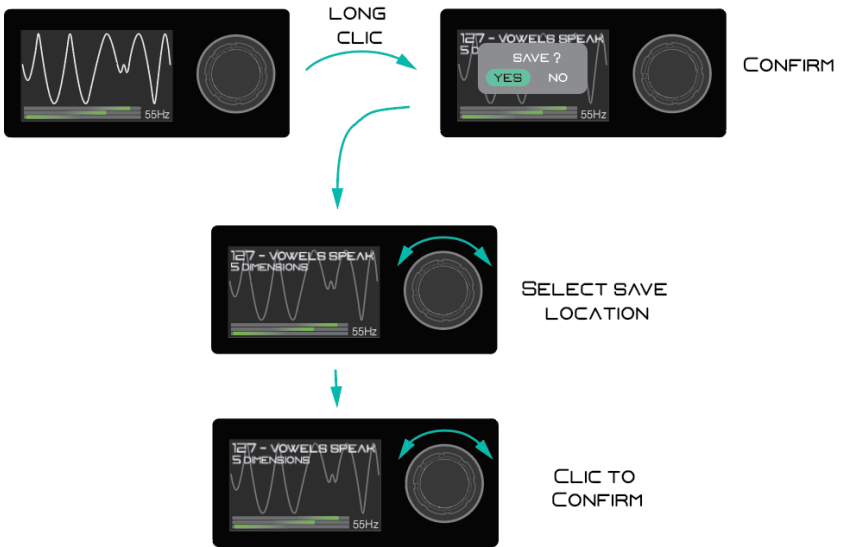
Save patches

パッチを保存するにはメイン画面から以下のように操作してください。

1. エンコーダーを長押しして保存確認の画面をポップアップさせます。
2. Confirm または Cancelを選択
3. 保存先を1 から 128で選択



4. クリックして確定



MEMORY

SESSION

PATCH MEMORY

PATCH 001

PATCH 002

PATCH 003

⋮

PATCH 128

WAVETABLE POOL



WAVETABLE 01

WAVETABLE 02

WAVETABLE 03

⋮



WAVETABLE 25

CONFIGURATION



Patch

パッチはプリセットとしていつでも呼び出すことができます。Dimensionは最大128のパッチを保存することができます。各パッチは、ウェーブテーブル・プールから1つまたは複数のウェーブテーブルを使用できます。

パッチが保存されると、そのピッチチューニングとマクロポテンシヨメーターの位置がパッチ内に保存されます。このようにして、パッチを呼び出したときには、保存時とまったく同じパッチ構成とサウンドを見つけることができます。パッチをリロードすると、マクロやピッチのポテンシヨメーターは、パッチ内に保存された値にヒットするまでは変更されません（ノブロックの状態）。マクロコントロール用のメーターは、ロックされると保存された値が赤色で表示されます。

Session

Dimensionの内部メモリ全般をSessionと呼びます。セッションは、フロントパネルのマイクロSDカードからいつでも保存・読み込みが可能です。こうすることで、プロジェクトをバックアップしてゼロから新しいプロジェクトを始め、必要なときに前のプロジェクトに戻るなど柔軟な対応が可能になります。

セッションは以下の3つのパートに分かれています。

- ・パッチ・メモリー
- ・ウェーブテーブル・プール
- ・コンフィギュレーション



PATCH MEMORY

本機は最大128種類のパッチコンフィギュレーションを保存することができ、これらのパッチはいつでも呼び出すことができます。

パッチ・パラメーターは、変更しても自動的にメモリーに保存されることはありません。こうすることで、意図せずにパッチプリセットを上書きしてしまうことを防ぐことができます。

WAVETABLE POOL

ウェーブテーブル・メモリープールには、最大25個のウェーブテーブルを保存することができます。メモリー・プールにあるウェーブテーブルは、128個のパッチで自由に使うことができます。

ただし、メモリープールのウェーブテーブルが別のものに置き換わった場合、そのウェーブテーブルを使用しているすべてのパッチに影響が出ることに注意してください。

CONFIGURATION

Configuration parameters (設定パラメータ)はグローバルに設定され、変更後はモジュール・メモリーに自動的に保存されます。設定パラメータには、ユーザー設定や出力モード (Stereo、Dual、LFO、MIDI...) が含まれます。

Save/Load session

Dimensionのアクティブセッションを保存し、SDカードにDimensionをバックアップすることができます:

- CONFIGメニューに入り、"Save session"をクリックします。
- EDITをクリックしてセッションの名前を入力し、SAVEをクリックします。
- Dimensionは、SDカード上のフォルダ"/Session"にバックアップを保存します



過去に保存したセッションを読み込むには、

- CONFIGメニューに入り、"Load session "をクリックします。
- SDカード上の利用可能なセッションを一覧から選択する。
- Dimensionはセッションから128パッチ、25ウェーブテーブル、
コンフィギュレーションを読み込みます。

Dimensionは128個のプリセットと25個のウェーブテーブルをロード/セーブする必要があるため、セッションのロードとセーブには1〜3分かかることがあります。

セッションファイルは、マイクロSDカードのルートディレクトリにある「.sessions」というフォルダーに保存されます。外部からセッションファイルを取り込むには、取り込みたいセッションファイルをこのフォルダーに保存します。



Micro-SD Card

FILE FORMAT

Dimensionは、ウェーブテーブルシンセシスへの旅を始めるのに便利なウェーブテーブルのコレクションが入ったMicro-SDカードを同梱して出荷されています。ウェーブテーブル・コレクションが増えるにつれ、他のMicro-SDカードを使用し、ストレージ機能を拡張したくなることでしょう。

Dimensionと互換性のあるMicro-SDカードは、FATまたはFAT32形式でフォーマットされている必要があります。以下のアドレスから入手できるソフトウェア「SDメモリーカードフォーマッター」を使用し、正しいフォーマットにフォーマットしてください。

<https://www.sdcard.org/downloads/formatter/>

Dimensionがサポートする最大メモリーカードサイズは32ギガバイトです。¹

WAVETABLE STORAGE

ウェーブテーブル・コレクションのファイルやフォルダは、自由に整理して保存することができます。Dimensionは高速ファイルブラウザを搭載しており、ウェーブテーブルコレクションを簡単にブラウズすることができます。詳しくは“Load wavetable”の項をご覧ください。

¹ FAT32形式でフォーマットすれば、より大容量のカードを使用することができます。ただし、使用可能なストレージの合計が32GBを超えることはありません。



PATCH EDIT

この章では、エディットメニューで編集可能なすべてのパッチパラメータについて説明します。アスタリスク(*)が付いているパラメータは、マクロコントロールに割り当てることができます。

NAV

UNI

FILT

VCA

WARP

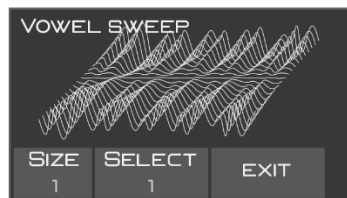
VOICES

NAVIGATION

CLASSIC MORPHING

ナビゲーション・セクションでは、パッチがいくつかのウェーブテーブルを通じてどのようにモーフィングするかを編集できます。サイズを1に設定すると、従来のウェーブテーブルシンセサイザーのように、1次元でのモーフィングが行われます。選択項目で、プール内の25個のウェーブテーブルの中から、パッチに使用するものを選択できます。

この例では、編集中的パッチが「Vowel sweep」という名前のウェーブテーブルを使用しており、ウェーブテーブルのメモリスロット1 (select = 1) に存在することがわかります。



NAVマクロコントロールは、デフォルトでウェーブテーブルモーフィングのポジションに割り当てられています。

MULTI-DIMENSIONAL MORPHING

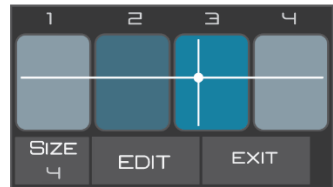
下の例のように、サイズ設定が1より大きい値に設定されている場合は、パッチがウェーブテーブル内の波形間でモーフィングするだけで



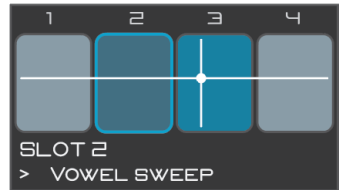
なく、同時に異なるウェーブテーブル間でも追加的な次元でモーフィングすることを意味します。EDITボタンで、パッチがどのウェーブテーブル間でモーフィングを行うかを設定し、SIZEパラメータで、モーフィングに並行して使用するウェーブテーブルの数を設定します。

以下の例では、サイズが4に設定されているので、4つのウェーブテーブルが並行して使用されることになります。4つの四角は4つのウェーブテーブルを表し、十字は4つのウェーブテーブルの中の正確なモーフィング位置を視覚化しています。

縦方向のカーソル位置はウェーブテーブル内の位置を示し、横方向の位置は4種類のウェーブテーブル間のモーフィング位置を示しています。



EDITボタンをクリックすると、モーフィングに選択するウェーブテーブルとその順序を設定・選択することができます。



スロットのウェーブテーブルを選択するには、目的のスロットを選択してからクリックし、プールから25個のウェーブテーブルの中から1つを選択します。スロットの上に表示されている数字は、ウェーブテーブルメモリプールの25個のウェーブテーブルが、どのスロットに割り当てられているかを示しています。



デフォルトでは、NAVマクロはウェブテーブル内の垂直方向の位置を制御し、Bマクロはウェブテーブル間の水平方向のモーフィング位置を制御するように割り当てられています。



Unison

NAV UNI FILT VCA WARP VOICES

UNISONのEDITメニューには、以下のパラメータがあります。

VOICES	DETUNE	SPREAD	MIX	SYNC	EXIT
24	35%	75%	50%	OFF	

VOICES

ユニゾンに使用するボイス数を設定します。

パッチがモノフォニックモードで構成されている場合、このパラメータは1（ユニゾンなし）から24ボイスまで設定可能です。

ポリフォニックモードまたはコードモードの場合は、24ボイスをポリフォニーまたはコード内で共有するため、このパラメータは最大6ボイスに制限されます。

DETUNE *

ボイス間のデチューン量を設定します。

0%では、すべてのボイスが同じ周波数にチューニングされ、ユニゾンが存在しないかのように聞こえます。

100%に設定すると、半分の声部が1オクターブ高く、残りの半分が1オクターブ低く設定されます。

50%に設定すると、ヴォイスは+1オクターブと-1オクターブの間で均一に周波数が拡散されます

SPREAD *



Spread は、ユニゾンボイスがステレオフィールド上でどのようにパンニングされるかをコントロールします。0%では、すべてのボイスがステレオセンターに配置され、均等にバランスされます。100%では、偶数ユニゾンのボイスは左に、奇数ユニゾンのボイスは右に出力されます。ボイスの総数が奇数の場合、センターボイスは常にステレオフィールドの中央に残ります。

スプレッドコントロールは、モジュールがステレオモードで構成されているときのみ表示されます。

MIX *

Mix ユニゾンのボイスをどのようにミックスするかをコントロールします。

SYNC

syncがrandomに設定されている場合、ノートイベントが検出されると、すべてのユニゾンボイスの位相がランダムな位置にリセットされます。

MIDI が有効な場合は、セレクトチャンネルで MIDI ノートを受信するとノートイベントが検出されます。MIDI がアクティブでない場合、TRIG インプットでトリガーまたはゲートが検出されます。



FILTER

NAV UNI **FILT** VCA WARP VOICES

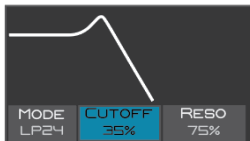
このメニューは、コンフィギュレーションメニューでフィルターが有効になっている場合のみ利用できます。有効にすると、各ボイスに直列に1つのステレオフィルターが設定されます。また、フィルタのカットオフを内部で制御するための専用ADSRエンベロープも利用可能になります。フィルターおよびVCAを有効にした場合のアーキテクチャの概要については、以下の図を参照してください。

VCAとVCFをアクティブにすると、Dimensionはたった10HPで完全なクラシック・アーキテクチャのシンセサイザーとして動作するようになります！

VCFエディットメニューでは、以下のパラメータが利用可能です。

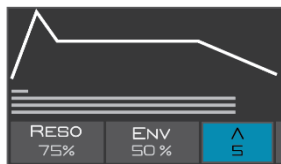
MODE	CUTOFF	RESO	ENV	^	D	S	R	EXIT
LP24	35%	75%	50%	5	10	20	45	

フィルターパラメータを編集しているとき、ディスプレイにはフィルターの現在の周波数特性が表示されます。



フィルターエンベロープのパラメータを編集すると、ディスプレイにはエンベロープのレスポンスカーブが表示されます。また、実際のエンベロープの振幅値を表す線が表示されます。

これはボイス1のエンベロープがアタック、ボイス2、3、4のフィルターエンベ



ロープフェーズがリリースの状態、フィルターエンベロープアタックを編集した例です。

+

MODE

フィルターモードは以下に設定が可能です。

- ローパスフィルター 24ポール “LP24”
- バンドパスフィルター 24 ポール “BP24”
- ハイパスフィルター 24ポール “LP24”

CUTOFF*

フィルタのカットオフ周波数をコントロールします

RESO*

フィルターのレゾナンス量をコントロールします。このパラメーターを高く設定すると、フィルターが自己発振し、振幅と周波数の高い音になる可能性があるため、注意してください。

ENV*

フィルターカットオフまでのエンベロープデプスを調節します。

A*, D*, S*, R*

ADSRエンベロープのアタック、ディケイ、サスティーン、リリースをコントロールします。



NAV

UNI

FILT

VCA

WARP

VOICES

VCA

このメニューは、コンフィギュレーション・メニューでVCAが有効になっている場合のみ利用可能です。

アクティブにすると、ステレオVCAがすべてのボイス出力と直列に作成され、Dimensionをフルシンセサイザーボイスとして使用できるようになります。前章のボイス・アーキテクチャの概要を参照してください。

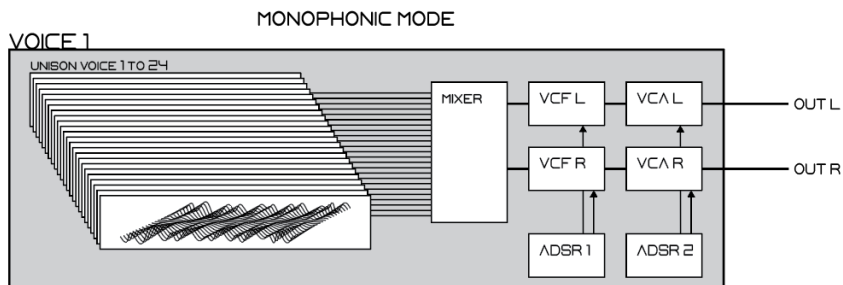
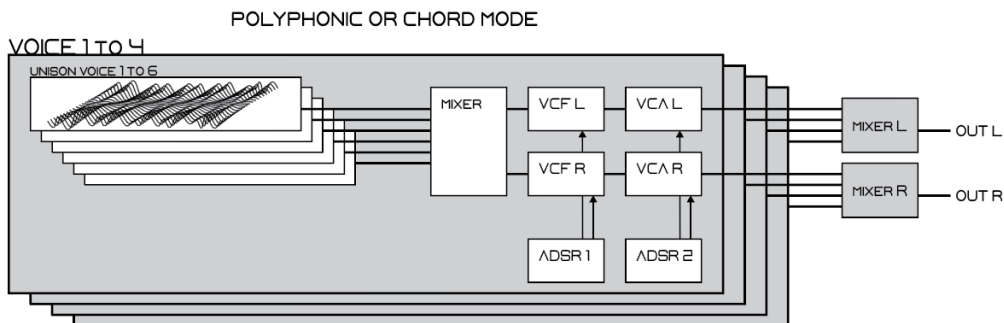
A*, D*, S*, R*

ADSRエンベロープのアタック、ディケイ、サスティーン、リリース・コントロール



VOICE ARCHITECTURE OVERVIEW

VCAやFILTERが作動している時の内部Dimensionアーキテクチャの概要を次の図に示します。





NAV

UNI

FILT

VCA

WARP

VOICES

WARP

ここではワープとリアルタイム波形トランスフォーメーションのアルゴリズムをコントロールできます。ワーププロセッサを起動すると、ウェーブテーブル出力をトランスフォーム、ベンド、ツイスト、フォールディングすることができます。

MODE

以下のワープアルゴリズムを適応することが可能です。

- Bend
- Squeeze
- Stretch
- Rubber
- Mirror
- PWM
- Folding
- Distort
- Sync
- Sync env
- Bits

CONTROL*



ワーブアルゴリズムを制御します。選択したワーブアルゴリズムに応じて、ベンド、スクイーズ、ストレッチ、PWM等の量をコントロールできます。



Voices

NAV UNI FILT VCA WARP VOICES

Dimensionは、最大24個のオシレーターを同時に出力することができます。選択された構成に応じて、これらのオシレーターはユニゾンやコードとして編成することができ、さらにはフルポリフォニックボイスを作成することもできます。

MAIN MENU > VOICES で希望のボイスモードを選択します。

MONO MODE

MONO MODEはデフォルトのモードで、ディメンジョン出力を1つのボイスにします。このモードでは、24ボイスすべてがユニゾンエンジンのために利用可能な状態になります。

CHORD MODE

コードモードでは、CV入力またはMIDIノート入力に応じた音程でコードをプログラムすることができます（有効な場合）。このモードでは、CV入力はクオンタイズおよびスケーリングされないので、CVでモジュールの周波数を制御することにより、美しいグリッサンド和音を生成することが可能です。

コードモードで生成されるコードは最大4音なので、24ボイスは4音に分割され、6つのオシレーターがユニゾンで使用できます。

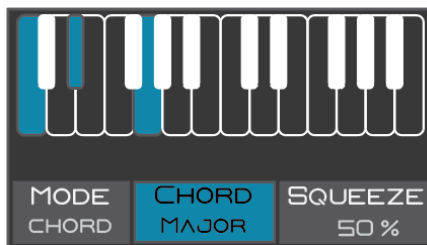
コード・モードでは、以下のコード・タイプが利用可能です。

- Minor, Major, Augmented, Diminished 7th ,Major 7th.



squeezeパラメータは、コードをデチューンすることができます。squeeze = 0の場合、コードは修正されず、正しい音で鳴ります。Squeezeを100%に設定すると、すべてのコードのノートがルート音に絞り込まれます。squeezeパラメータを実際に使用する例としては、

「THXディープノートサウンド」を生成することが挙げられます。

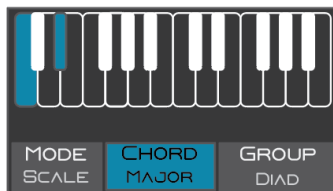


SCALE MODE

Chordモードでは、cv入力またはMIDIノート入力に応じてスケールされるコードをプログラムすることができます。Scalesモードでは、cv入力をクオンタイズして、スケールされたコードを出力します。スケール・モードは、正しく正確なコード進行を生成します。

スケールモードで生成されるコードは最大4音なので、1つのユニゾンで使用できるオシレータは6です。

スケール・モードでは、以下のコード・モードが利用できます。



- Minor, Major, Dorian, Phrygian, Lydian, Mixolydian, Arabic

グループパラメータには、次のようなものがあります。

- Root², Dyad, Triad, 5th, 7th, Tetrad

POLY MODE

このモードでは、ポリフォニックシンセサイザーのように4つのボイスを独立して使用、制御することができます。MIDIが有効な場合、Dimensionはポリフォニックシンセサイザーと同じように4つのボイスにMIDIノートを順次再生するようにアサインします。

MIDIがアクティブでない場合は、TRIG入力で正のゲート/トリガーエッジが検出されるとCV入力がサンプリングされ、サンプリングされた入力CVに従って音色が割り当てられピッチが決定されます。こ

² Groupを"Root"に設定すると、DimensionはモノフォニックノートスケラーとしてCVを処理します。Rootの音だけが出力されます。



の構成により、1つのCVとGATE/TRIGのペアだけで4つのボイスを仮想的に演奏し、コントロールすることができます。

VCAがアクティブでない場合、POLY MODEでのDimensionはドローンオシレーターのように動作します。ポリフォニック機能の内部を十分に楽しむために、VCAとADSRをアクティブにすることができます（詳しくはパッチのセクションをご覧ください）。

AUX MODES

Dimension は、異なる出力設定モードで動作させることが可能です。選択された Aux モードは、Dimension R/Aux 出力で利用可能なものに影響を及ぼします。

以下の出力構成が選択可能です

- **Stereo** (ステレオ)
- **Dual output** (デュアルアウトプット)
- Mono output (L/MAIN) + **LFO** (R)
- Mono output (L/MAIN) + **MIDI** コントロールボルトテージ, クロック and more on (R)

L/AUX出力モードを選択する場合は、以下のようにで選択します。

CONFIG ► AUX ► AUX MODE

stereo mode

ステレオモードでは、LとRからステレオ・オーディオ信号が出力されます。内蔵の24個のオシレーターは、コードとユニゾンの両方として設定でき、オシレーターをステレオ上でパンニングして、巨大なステレオユニゾンボイスを生成することができます。

音色パンの設定は、ユニゾン (UNI) メニューから行います。



dual mode

デュアルモードを選択すると、Dimensionは4つのボイスのうち1つを取り出し、R/AUXに異なる周波数で2次波形を出力するようになります。デュアルモードは、SUBオシレーターを生成する場合などに特に有効です。

デュアル・モードでは、メイン・スクリーンが2つに分かれます。ディスプレイの一番上の波形Aはメイン出力に、一番下の波形BはAux出力に出力されます。

NAVIGATION CONTROL

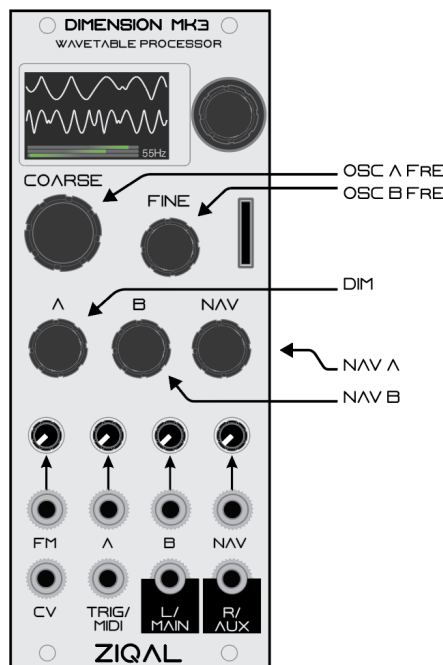
デュアルモードでは、NAVマクロがウェーブテーブルAのモーフィングに、AマクロがウェーブテーブルBのモーフィングに割り当てられます。ウェーブテーブルAのナビゲーションサイズは通常通り設定でき、マクロコントロールBはパラレルウェーブテーブルナビゲーションに初期設定されています。

VOICE DISTRIBUTION

4ボイスのうち1ボイスがセカンダリーオシレーターに使用されるため、オシレーターAは和音やポリフォニー用に3ボイスに限定されることになります。

EDITION

Dualモードでは、エディットメニューにユニゾンやフィルターなどのオシレーターBのパラメータを編集するためのセカンダリーメニュー



が表示されます。

Dualモードでは、エディットメニューにユニゾンやフィルターなどのオシレータBのパラメータを編集するためのセカンダリーメニューが表示されます。

*現在のファームウェアバージョンでは、Dualモードでポリフォニックボイスモードを使用することはできません。この機能は、将来のファームウェアアップデートでアンロックされる予定です。



LFO mode

LFOモードは、Dimension L/AUXのセカンダリー出力をウェーブテーブルLFOに変換するモードです。LFOモードは、セカンダリーオシレーターの周波数がオーディオレートからLFOの周波数範囲に下がることを除けば、デュアルモードと非常によく似ています。

Aux 出力に LFO モードが選択された場合、A のマクロコントロールは LFO モーフィングに割り当てられ、Tune ポテンシオメーターで LFO レートを調整することができます。このモードでは、メニューに新しい LFO メニュー項目が表示されます。このメニューでは、25 個のウェーブテーブルから 1 つを LFO にアサインすることができます。

Sync パラメーターは、モジュールによって受信された MIDI クロックに同期する LFO 周波数を設定することができます。同期が有効な場合、Tune ポテンシオメーターは LFO 周波数ではなく、クロックの分周比をコントロールします。

LFO モードでは、2 次出力波形の周期は 10 ミリ秒から 5 分までの範囲で変化します。

MIDI Utility mode

ファームウェアバージョン 3.0 で導入されたこのモードは、Aux 出力を MIDI 変換ユーティリティに変えます。Dimensionは、MIDIインプットで受信したMIDIメッセージをAuxアウトプットに変換します。

TYPE

タイプパラメータでは、どのようなタイプのMIDIメッセージを変換するかを選択できます。以下のオプションが用意されています。



CV, Gate, Trig, CC, Bend, Wheel, Clock

CC

CCを選択した場合、コントロールチェンジナンバーを0～119の範囲で選択することもできます。CC選択時の出力レンジは0～8Vです。

CLOCK

クロックが選択されると、出力が生成する4分音符あたりのパルス数を選択することができます。

24, 12, 1, $\frac{1}{2}$, $\frac{1}{4}$, $\frac{1}{8}$, $\frac{1}{16}$



LOAD WAVETABLES

ウェーブテーブルの読み込みは、素早く簡単に行えます DIMENSIONのメモリには、最大25のウェーブテーブルを保存することが可能です。

LOAD A WAVETABLE

> お気に入りのウェーブテーブルが入ったマイクロSDカードを DIMENSIONに挿入します。

> メインメニューに入り、SDを選択します。

> ロードしたいウェーブテーブルのディレクトリの場所に移動し、クリックします。

> ウェーブテーブルを読み込むために、25個あるプールのメモリスロットの1つを選択します。

これで完了です。ウェーブテーブルが128のパッチで利用できるようになりました！

WAVETABLE FORMAT

Wavetablesは、1～最大256の波形を含む.wavファイルである必要があります。これらのテーブル/ウェーブフォームはそれぞれ2048サンプルで構成されています。.wavファイル形式は、16bitモノラルまたは32bitモノラルである必要があります。

Dimension Wavetableフォーマットは、SerumおよびVital wavetablesフォーマットと完全な互換性があります。SerumまたはVitalのウェーブテーブル・ライブラリを使用し、Dimension内で直接使用することができます。これらのウェーブテーブルをインポートするには、DimensionのマイクロSDカードに入れるだけです。

CREATE YOUR OWN WAVETABLE

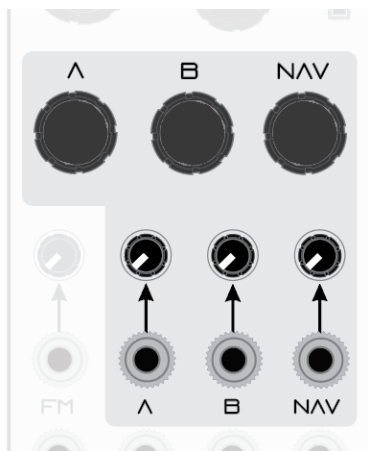


Dimensionでは、ゼロからウェーブテーブルを作成することはできませんのでご注意ください。しかし、ほとんどのコンピュータには、独自のウェーブテーブルを生成するための優れたツールが数多く存在します。

MACRO CONTROLS

Dimensionでは、マクロコントロールが非常に重要です! このマクロコントロールは、ウェーブテーブルの全てのパラメーターを電圧コントロールできるようにすることで、ウェーブテーブルのパワーを解放します。

DIMENSIONは3つのマクロコントロールを搭載しています。A、B、NAVです。マクロコントロールは、コントロールポテンシオメーターとCVインプット、そしてアッテネーターで構成されています。



マクロは内部パラメータに自由に割り当てることができ、1つのマクロで1つまたは複数のパラメータを一度に制御することができます。

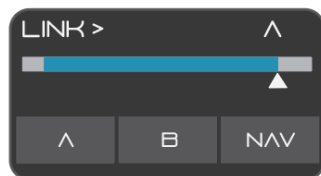
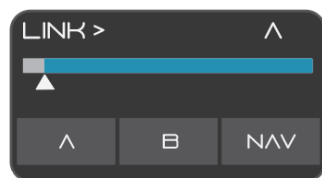
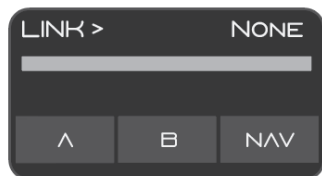


NAV (ナビゲーション) コントロールは、デフォルトで常にメインのウェブテーブルモーフィングに割り当てられています。モジュールの構成によっては、A と B のマクロがデフォルトで割り当てられていることがあります。



ASSING A MACRO

マクロコントロールを内部パラメータにアサインするのは簡単です。メニューを操作して、マクロを割り当てたいパラメータを選択します。エンコーダーを長押しすると、選択したパラメーターへのアサインメニューが表示されます。



最初の行には、そのパラメータがすでにマクロに割り当てられているかどうかが表示されます。パラメータにマクロを割り当てるには、「set」をクリックしてください。すでに割り当てられているパラメータを削除するには、「reset」をクリックしてください。

パラメータを制御したいマクロを選択します。

マクロコントロールがパラメータに影響を与えるレンジを、最小値で設定します。

最大値を設定します。マクロコントロールがパラメータに影響を与える範囲を設定します。



パッチ内の好きなだけ多くのパラメータにマクロを割り当てることができます。また、リバースレンジエフェクトを割り当てることも可能です。



CONFIG MENU

コンフィギュレーションメニューには、次のような項目があります。Dimensionのコンフィギュレーションに加えられた変更は、自動的にセッション・メモリーに保存されます。SDカードからセッションがロードされると、セッションのコンフィギュレーションもロードされます。

PATCH

RENAME

パッチに名前をつけることができます。

INIT

INITボタンをクリックすると、パッチが初期化されます。

NAVIGATION MODE

パッチのウェブテーブルナビゲーションがスムーズにモーフィングされるか、モーフィングなしでウェブテーブル波形から波形にジャンプするかを選択できます。

ANTI-ALIASING

アンチエイリアシングアルゴリズムを下げるか、あるいは完全にバイパスするかをここで選択することができます。もしこれを選択した場合は、エイリアンサウンドの襲来に備えるようにしてください！！

Aux

AUX MODE

R/AUX出力機能を選択することができます。以下のオプションから選択できます。

Stereo, Dual, LFO, MIDI



Auxモードの操作については“Aux modes”の項を参照してください。

VCA Envelope

内蔵VCAとそのADSRエンベロープのオン/オフ切り替え

Filter

内蔵VCFとそのADSRエンベロープの有効化・無効化

MIDI

MIDI CHANNEL

このパラメーターが " OFF " に設定されている場合、TRIG/MIDI 入力は論理入力として動作し、TRIG、GATES を受信します。しかし、ChannelがMIDI Channelまたは "ALL "に設定されている場合、Dimensionは対応するMIDIチャンネルでMidiメッセージを受信しません。

PITCH BEND RANGE

MIDI Bend MIDIメッセージのレンジを1~36半音で設定します。

POOL

クリックすると、ウェーブテーブルプールのメモリ内容が表示されます。



Save/load session

Dimensionのメモリ全体をMicro-SDカードにバックアップするには、saveをクリックします。保存したセッションをmicro-SDカードから読み込むには、loadをクリックし、画面の指示に従います。

Customize

DISPLAY BRIGHTNESS

ディスプレイの明るさを設定できます

DISPLAY INFO

メインディスプレイの左下に周波数情報を表示するか、ノートチューナーを表示するかを設定します。

FINE TUNE RANGE

ファインチューンポテンシオメーターのレンジを2セミトーン～3オクターブで設定します。



FIRMWARE UPDATE

- 1 - dimension のウェブページ www.ziqal.com/support にアクセスし、最新の Dimension ファームウェア・リリースをダウンロードします。
- 2 - ダウンロードしたアーカイブの内容をマイクロSDカードのルートディレクトリに解凍します（マイクロSDカードに他のファームウェアが既に存在しないことを確認します）
- 3 - Dimensionの電源をオフにし、SDカードをカードリーダーに挿入します。
- 4 - エンコーダーボタンを押しながら、モジュールの電源をオンにします。画面がゆっくりと点滅し始め、SDカード上のファームウェアを検索していることを示します。画面が速く点滅し始めるか、青色のプログレスバーが表示されたら、エンコーダを放してください。
- 5 - モジュールが更新を終了するまで待ちます。終了すると、Dimensionは自動的にリブートします。

!!! モジュールの完全なアップデートが完了するまで、モジュールの電源を絶対に切らないでください。

